

# 多様な廃棄物を資源として循環利用を進めています

鉄道事業や生活サービス事業にともない排出される多くの廃棄物。できるだけ出さない(リデュース)、繰り返し使う(リユース)、再び資源化する(リサイクル)、3つの取り組みで資源循環を推進していきます。

## 廃棄物を再び資源に

### 廃棄物の種類ごとにリサイクル目標を設定

列車や駅から日々排出される廃棄物、総合車両センターからの産業廃棄物、さらに生活サービス事業の飲食業の生ゴミや小売業の一般廃棄物など、事業からは多くの廃棄物が発生します。JR東日本グループが2006年度に排出した廃棄物は64万トン。このうち77%をリユース・リサイクルしました。

廃棄物の量は、排出割合の大きい設備工事の内容が年度ごとに異なり大きく変動するため、廃棄物の種類ごとにリサイクル率について達成目標を定めて取り組んでいます。

一般廃棄物は、JR東日本グループ全体で2008年度までにリサイクル率を43%とする目標を定めており、2006年度は43%となりました。

### ● 駅・列車におけるリサイクル

JR東日本を利用するお客さまは一日平均約1,600万人。駅や列車で排出されるゴミは2006年度で4.5万トンにも及び、11万人が1年間に一般家庭で出すゴミの量に相当します。このなかには新聞や雑誌、空き缶などの資源ゴミも含まれているため、分別を徹底し、再び資源として利用できるよう努めています。JR東日本では、駅に分別ゴミ箱を設置するほか、首都圏では収集後の分別を徹底して行うリサイクルセンターを設けています。

2008年度までにリサイクル率を45%とする目標を定めています。2006年度は50%となり、引き続き目標を達成しました。

### ● リサイクルセンターの運営

駅や列車からの廃棄物が特に多い首都圏では、上野駅と大宮、新木場の3カ所にリサイクルセンターを設けています。2006年度においては、空き缶・ビン・ペットボトルは上野駅と大宮のリサイクルセンターで、東京都内と埼玉県内からの5,076トンを分別・圧縮し、再生業者に送りました。同様に、集積した新聞・雑誌は新木場のリサイクルセンターから6,780トンを製紙工場へ送り、コピー用紙などにリサイクルしました。運営はグループ会社である(株)東日本環境アクセスが行っています。



大宮リサイクルセンターでは空き缶・ビン・ペットボトルを分別して、圧縮処理をしています

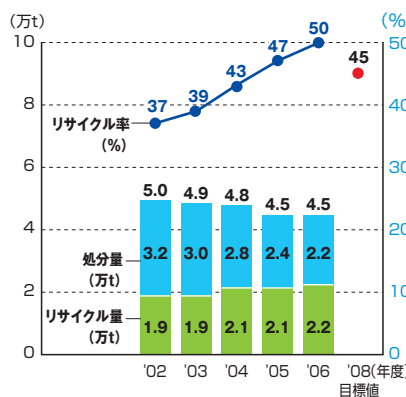
### ● 総合車両センターなどでのリサイクル

車両の製造時やメンテナンス時に発生する廃棄物のリサイクルを進めています。通勤・近郊型電車を製造する新津車両製作所では、車両設計時からライフサイクル全体を考慮し対応しています。また車両の整備や修繕を行う各地の総合車両センターでは、廃棄物の減量とリサイクルを図るため、廃棄物を20~30種類に分別し、専門の回収業者に送るなど、分別の徹底によりリサイクル率の向上に取り組んでいます。なお、2005年度からは廃車車両のうち外部に売却したうえで解体される車両についても、把握の対象として拡大し、取り組みを進めています。

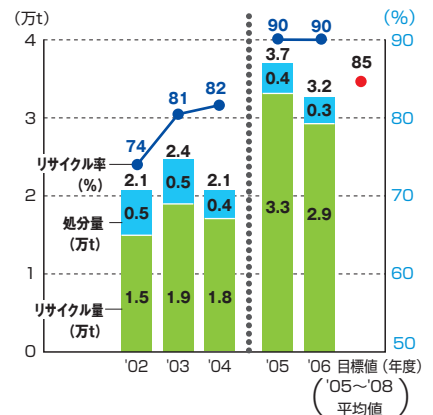


長野総合車両センター。廃車輪をブレーキディスクの部品にリサイクルしています

### ■ 駅・列車からのゴミの推移



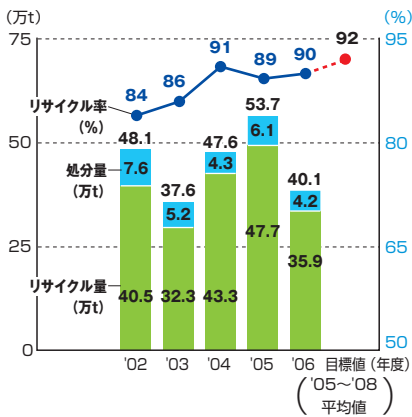
### ■ 総合車両センター等からの廃棄物の推移



### ● 設備工事における廃棄物削減

廃棄物処理法上は工事の請負会社が排出事業者になりますが、JR東日本も発注者として、仕様書などを通じて、建設副産物の適正処理や、廃棄物を抑制する設計・工法を規定し、廃棄物削減に向けた努力をしています。駅や構造物の建設やメンテナンスによる設備工事では、外部からの受託工事※1による7.5万トンを含めて、2006年度には40.1万トンの廃棄物が発生しました。

#### ■ 設備工事からの廃棄物の推移



### ● オフィスにおける取り組み

本社・支社などの各オフィスでは、さまざまな対策によりペーパーレス化による廃棄物の削減を推進するとともに、リサイクルに取り組んでいます。分別を徹底することで、2006年度には廃棄物3,089トンのうち2,219トン(72%)をリサイクルしました。

### ● 生活サービス分野の取り組み

駅構内・駅ビルなどから出るゴミの減量やリサイクルも積極的に進めています。

駅弁などを製造・販売している(株)日本レストランエンタプライズでは、食品ゴミの循環利用を行っています。これは、食品ゴミを堆肥へ再生し、自社の有機リサイクル農園や契約農家で使用、さらにそこで生産した有機野菜などを飲食店で食材として使用するというものです。ほかにも、多くの駅ビルなどで、生ゴミのリサイクルや減量に取り組んでおり、吉祥寺ロンロンでは、駅ビル内に堆肥化施設を設置、グランデュオ立川では、ビル内で行った堆肥を店頭で販売しています。



有機リサイクル農園で収穫された野菜(里芋)

### ● 水資源の有効利用

JR東日本では、年間1,189万m<sup>3</sup>の水資源を使用しています。このため、中水※2の利用を積極的に進めており、雨水や手洗い水をトイレの洗浄水として再利用しています。本社ビルでは2006年度に使用した4.2万m<sup>3</sup>の水のうち、2.1万m<sup>3</sup>を再利用しました。

### ● お客さまと取り組む環境負荷軽減

国内で年間300億枚も使い捨てられているレジ袋を減らすべく(株)JR東日本リテールネット※3が運営するNEW DAYSでは、お客さまにレジ袋が必要かどうかお声をかけるとともに、レジ袋の厚みを2~5ミクロン薄くするなどリデュースに取り組んでいます。

また、5周年を記念した布製の「Suicaエコバッグ」を先着20万名様にお配りしました。配布後も、エコバッグをお使いいただいたお客さまにポイントシールによるキャンペーンを展開して利用促進によるレジ袋削減に取り組んでいます。

駅ビルでは、ペリエ千葉・稲毛、めりーな西千葉でマイバッグ持参のお客さまにスタンプカードによる割引サービスを行っているほか、グランデュオ立川で、毎月5日を「スマートラッピングの日」として、簡易包装を推進しています。



駅のコンビニエンスストア NEW DAYSでは、レジ袋の軽量化や削減キャンペーンを実施

※1 受託工事

列車の安全運行の確保などのために、JR東日本が自治体などから委託を受けて行う社外施設の工事。

※2 中水

上水と下水の中間に位置付けられる水の用途。水をリサイクルして限定した用途に利用するもの。

※3 JR東日本リテールネット

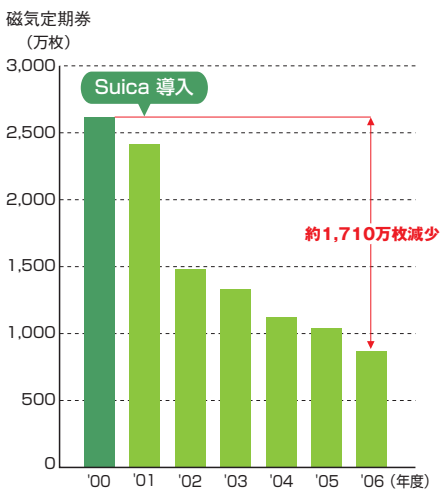
旧東日本キヨスク(株)。2007年7月1日より(株)JR東日本リテールネットに社名変更するとともに、店舗名をキオスクに変更しました。

● 乗車券類のリデュースとリサイクル

リデュース(ゴミの発生抑制)に効果があるICカード乗車券Suica。これまでのような乗車券の購入が不要であり、繰り返し使用できることから資源の大きな節約につながります。Suicaを繰り返しご使用いただくことで、リデュースの効果は大きくなることから、通常の乗車券類とは異なり、初回購入時にデポジットをお預かりすることで、使い捨て防止を図っています。またSuicaの普及により、磁気定期券の減少も進んでいます。具体的には、Suica導入前の2000年度と2006年度の磁気定期券の年間発行枚数を比較すると、約1,710万枚減少しました。

一方、大量に回収された使用済み切符や磁気定期券はほぼ100%リサイクルしています。使用済みの切符は製紙工場へ送り、切符の裏面の鉄粉を分離して再生利用します。2006年度には回収量640トン全ての切符をトイレトペーパーや段ボール、名刺用紙にリサイクルしました。また、回収した磁気定期券についても、固形燃料としてリサイクルしています。

■ 磁気定期券の発行枚数の推移



● グリーン調達への推進

資材調達の際に、環境負荷が小さい製品を選ぶよう努めること。また、再生材料の使用や廃棄物の減量化などを取引先をお願いすること。これらをJR東日本の「グリーン調達ガイドライン」(1999年制定)に定めて進めています。

2000年度からはペットボトルなどの再生ポリエステル繊維を利用した制服を採用。また、オフィスで使用する事務用品においては、51%の品目がグリーン購入対象物品となっており、コピー用紙も全社使用量の99%を再生紙で占めています。

さらに、資材調達の取引先を選定するにあたり、環境およびCSRへの取り組み状況を調査把握し、これを選定指標のひとつとしています。



ペットボトルなどの再生ポリエステル繊維を利用した制服



駅で回収した新聞紙はリサイクルされて、JR東日本がコピー用紙として購入し、社内で再び使用します

● 駅のゴミを社内で循環利用

駅で発生するゴミの循環利用を進めています。単に既存のリサイクルルートに乗せるだけでなく、できるだけ社内の再利用を増やすよう努めています。

例えば、切符から再生された紙は、トイレトペーパーとして首都圏の主な駅のトイレで使用するほか、社員の名刺としても再利用しています。

また、駅や列車の分別ゴミ箱で回収した雑誌はコート紙に再生し、新幹線車内に設置している情報誌「トランヴェール」の用紙として使用しています。さらに、新聞紙はコピー用紙にリサイクルし、社内のコピー用紙として使用しています。



駅で集められる使用済み切符は、トイレトペーパーとして首都圏の主要駅に戻ります



新幹線車内に設置している情報誌「トランヴェール」は、駅や列車で捨てられた雑誌などをリサイクル